

八方ヶ原線歩道

(はっぼうがはらせんほどう)

塩原随一の渓谷美を誇る秘境・・・「桜沢」の森へ！
奥蘭田（おくらんでん）「塩溪紀勝（えんけいきしょう）」の世界を歩く。

日光国立公園塩原温泉郷の渓谷景観をつくりだす、箒川（ほうきがわ）は、那珂川水系のひとつです。その源は、那須塩原市と矢板市・塩谷町・日光市にまたがる連山、「高原山」に源頭部です。箒川の支流のひとつ、鹿股川（かのまたかわ）もまた高原山麓が源となります。その源が、「桜沢（さくらさわ）」と「スッカン沢」であり、その渓谷景観と森は「塩原の秘境」と言われ、明治・大正時代から現在にいたるまで、多くの人々を魅了し続けています。



秋・錦秋の森に包まれる桜沢の森

■工 程：往復 約 6.2km

■所要時間（記載時間には休憩時間は含まれておりません。）

○八方ヶ原（学校平 山の駅たかはら）（矢板市）

⇒ 「雷霆の滝」まで 約 2.1km 約 60分 ⇒ 約 1km 約 30分「咆哮霹靂の滝」

○咆哮霹靂の滝 ⇒ 八方ヶ原（学校平 山の駅たかはら） 約 120分



「奥蘭田（おくらんでん）」（1836-1897（明治30年））

「塩原三恩人」のひとり。その生涯を商業に置き、幕末から明治にかけて多くの事業を興した東京実業界の重鎮でした。また、幼少の頃より漢学や絵画に親しみ風流を愛する多芸多能な人物でもありました。

明治21年（1888年）蘭田は景勝の地、塩原温泉に別荘「静寄軒」を構え、塩原の自然・温泉・地理・産物などさまざまな分野を探り、明治23年（1890年）に「塩溪紀勝（えんけいきしょう）」という書物にまとめ出版しました。すなわちこれが世に出回った最初の、塩原温泉郷紹介の書物でした。

原文は漢文体で、詩画を配し、塩原の景色を十八景に分けています。これによって塩原の美しい自然や良質の温泉は広く人々に知られ、観光客の増加につながりました。

書物の中で蘭田は、スッカン沢（雄飛の滝線歩道）や、桜沢（八方ヶ原線歩道）の渓谷を詳細に記載し、その渓谷美を絶賛しています。

また、原文が漢文体、詩画を配していたため、このふたつの渓谷にある名瀑の名前に難しい漢字が使用されているのはこのためです。

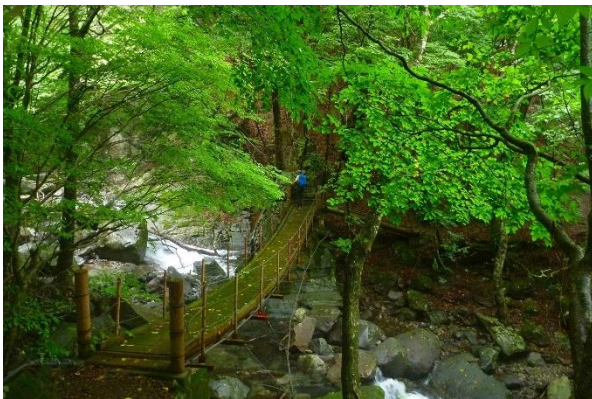


奥蘭田

らいてい 雷霆の滝

「雷霆（らいてい）」とは、激しい雷の事を表した言葉です。高さは約10mですが、幅広く水量豊富で、でこぼこした一枚岩の上を、水が流れ落ちる様は見事です。その流れる音が、激しい雷に例えられこの名がつけました。滝壺付近は、散策歩道随一の休憩ポイントとなります。

◆八方ヶ原学校平より約40分



らいてい 雷霆の吊橋

桜沢の、雷霆の滝下流に架かる吊橋です。全長15.8mの吊橋を渡る頃には、荒々しい雷霆の滝の水音が消え、静かな桜沢のせせらぎ、森に響き渡ります。

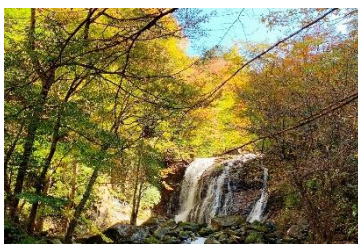
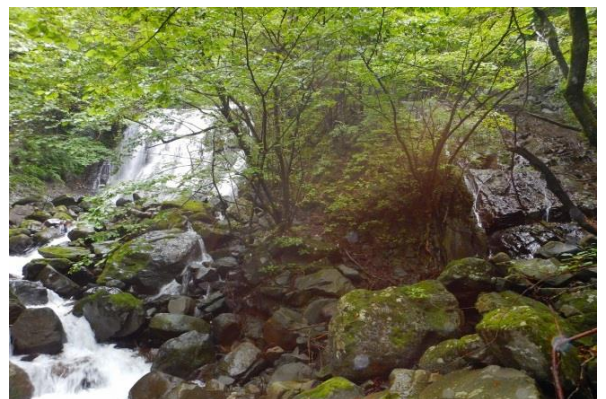
◆咆哮霹靂の滝へ 約30分

ほうこうへきれき 咆哮霹靂の滝

散策路からみて左の流れを「咆哮」。右の流れを「霹靂」と呼びます。「咆哮」とは、虎などが吠えることを。「霹靂」とは、雷の激しい音を表現している。

※蘭田（おくらんでん）「塩溪紀勝」より。

豪快な音を立てて流れ落ちる滝と滝が作り出す渓谷景観は散策路随一の景勝地です。



咆哮の滝



雷霆の滝

◆自然公園散策マナーを守り、
森の一期一会を楽しみましょう♪

自然散策・観察する時は、許可無く動植物の採取などを行わないよう、公園マナーを守りましょう。また、ご自身の体力や体調を過信せず、季節の気候変動にも十分に配慮して、安全な自然散策を心がけましょう。